



2021

2024

tsumikiの使い方
tsumikiの取り組み

tsumikiの歩みと役割

tsumikiは、2016年11月JR利府駅前に誕生した公共施設です。これまでに約38,000人の方にご利用いただき、2020年には、まちづくりの主体となる新たな人材を育成するための拠点としての実績が認められ、グッドデザイン賞を受賞。まちづくりの拠点として歩みを進めてきました。

このたび、tsumikiの役割や、まちに与えた影響を一枚のペーパーにまとめました。当たり前のサービスから、意外と知られていない機能まで、決して大きな施設ではありませんが、使い方は多様です。tsumikiのいろいろな顔を知ることができる——それはまるで「手引きのようなもの」です。これまで利用された方はもちろん、これからtsumikiを使ってみたいと考えている方にも役立っていただけます。

tsumikiは「出発駅」

tsumikiは、チャレンジャーにとっての終着駅ではなく、出発駅です。「何かを始めたい」「何かを形にしたい」——そんな想いを持つ方々が施設を活用し、次のステップへと進んでいく。tsumikiは、その挑戦を後押しする場所です。

駅にはたくさん人が集まり、それぞれの目的の駅に向かって電車に乗り込みます。施設を利用する方が、自分の目指す活動をする中で、時に壁にぶつかり、行き先に悩むことがあったら、またtsumikiという駅に立ち寄り、事業や活動を振り返り、見つめ直す機会として活用してください。

tsumikiは、いつでもあなたのチャレンジを応援しています。



公式ウェブサイト

rifu-tsumiki.jp

X

@rifu_tsumiki

Facebook

<tsumiki>で検索

Instagram

@rifu_tsumiki

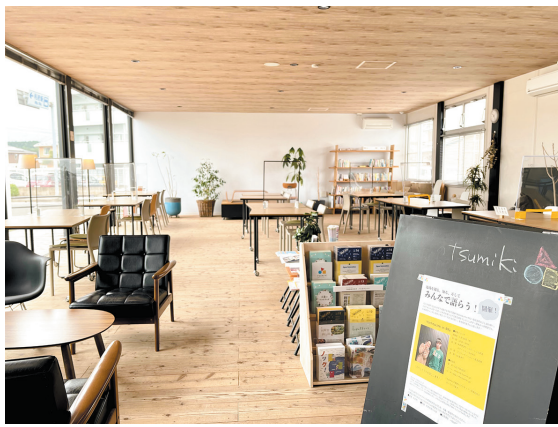
tsumikiペーパー「手引きのようなもの」
【発行日】2025年3月31日 【発行】利府町 【企画】一般社団法人Granny Rideto 【編集】葛西淳子、桃生和成 【デザイン】Intargire(伊瀬谷美貴)

1

働く

ワークスペース

ワークスペースは、起業・創業、市民活動などの相談の場として、個人・団体を問わず、だれでも使用することができます。書類づくりや少人数の打ち合わせなど、仕事場として利用できます。



テーブルやイスは、フレキシブルに移動でき自由に組み合わせて使用できます。

使用料

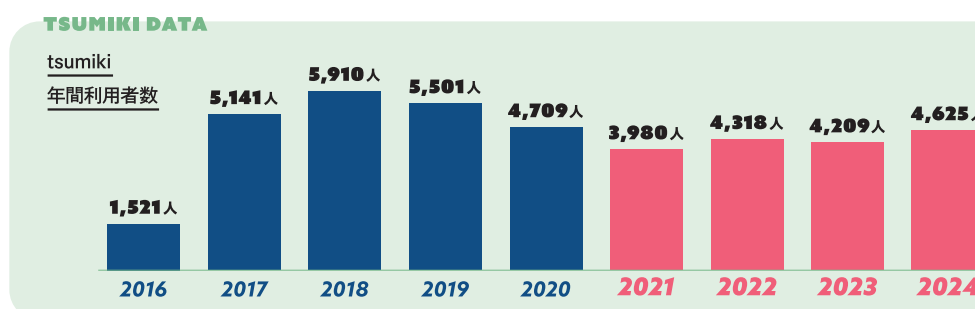
ワンドリンク付き

3時間未満 250円
3時間以上 500円

フリーWi-Fi有り／電源有り／コピー複合機(有料)

入館のみは無料*

※小学生未満の利用、委託販売等の購買のみの入館、各種相談のための入館、その他座席を使用しない一時的な入館は無料です。



4

売る _1

直接販売

使用料

1日1㎡あたり 500円

※利用する際はスタッフと事前相談が必要

●利用事例



お菓子販売

織物実演販売

ナシソーダ販売

2

くつろぐ

カフェスペース

施設を利用するには、カフェスペースでコーヒーなどの飲料をサービスしています。カフェスペースで、ゆったりくつろぐ場として、電車やバスの待ち時間に、コンサート開催時にグランディ21へ来場する方の休憩の場として利用できます。



メニュー

HOT / ICE

●スタンダードブレンドコーヒー
●リッチブレンドコーヒー
●紅茶
●緑茶
●ルイボ스티ー

●ココア
●カフェオレ
●抹茶オレ
●カルピス
●レモネード

*メニューは変更することがあります。

2021-2024年の利用別平均

利用方法別平均

4年間の総利用人数 **17,132人**

3時間利用 **69%**

相談 **8%**

1日利用 **6%**

出店 **2%**

委託商品購入 **14%**

利用者は、新型コロナウイルスによる休館などの影響で一時的に減少しましたが、その後は4000人程度の横ばいで推移。また、利用方法としては、3時間未満の利用が70%近くを占め、特にワークスペースや少人数打ち合わせなどの利用が目立ちます。

5

売る _2

委託販売

使用料

食品の場合 売上の10%

物品の場合 売上の15%

●利府の特産品「こ・みやげ」

刈安染め、利府焼、利府梨カレー、利府の逸品 など

お菓子販売

織物実演販売

ナシソーダ販売

3

交流する

利府町や周辺地域の人々が自由に交流し、新しい仕事やまちづくりのアイデアが生まれる場として、tsumikiは開かれてきました。交流の場ができたことで、埋もれていた人材が発掘され、新たな価値や動きが生まれています。さらに、tsumikiの得意とする「妄想会議」という手法から、ユニークな取り組みも生まれました。

●利府を観る、知る、そして語らう(2021年)

利府の先輩たちが培ってきた地場産業を「若い世代につなぐたい」という想いから、町内で事業を営む3人の経営者が発案者となり、歴史や文化、産業を通して町を活性づけるため、人々がつながり語らう場をつりました。全3回の開催で、町内外からのべ76人が集いました。

●tsumiki交流パーティー(2024年)

日頃からtsumikiを利用している方々や、利府町で活動する事業者・団体、個人やフリーランス、新たに活動を始めた方が40人ほど集まり、交流パーティーを開催しました。対面で話す機会が少なかった方や「はじめて」の方同士も、思い思いに交流し、親睦を深める場となりました。

●利府レガシーになるイベントを創ろう(2022年)

利府町観光プロモーターの利府町地域おこし協力隊の李さんとともに、妄想会議を行いました。利府町内を中心に学生からシニアの方まで13人が参加し、活発な議論を展開。その結果、「おもしろく遊べるウォークラリー」を企画し、実施する運びとなりました。

施設の使い方は、多種多様です。意外と知られていない機能もあり、使い方が分かれれば、できることも広がります。ワーク・カフェスペース、交流、販売、相談など上手に使い分けたり、組み合わせてみたり。実現したいことに合わせて活用すれば、やりたいことを形にすることができます。

6

相談する

起業経営の相談

CASE_01

開業・移住

アトリエジェルメールブルー

起業相談、直接利用を定期的に活用

利府町に移住し、フラワーアレンジメント教室や花育講座を開業。花育を通じて花の魅力を伝え、子育てと自分時間を両立できる環境づくりを目指す。tsumikiの直接販売を利用し、定期的に講座を開催するなど実績を積み独自の仕事を獲得しています。

市民活動の相談

CASE_03

女性・子育て

ゆるっとナチュラル育児の会

団体の立ち上げ、イベントの始め方、企画の仕方などを相談

小高い事業者が集まる市民活動団体。tsumikiのこ・あきない市や新生業塾、委託販売を活用し、制度が充実した利府町で、さらに子育てがしやすい環境づくりを目指す。マルシェイベントやおさがり会、子育てサロンを企画・実施しています。

CASE_02

開業・シニア

古着物のリメイク あたらさ

新生業塾受講、委託販売などを活用

タンスに眠っていた着物の想い出を受け継ぎ、現代に合う服へリメイクする受注スタイルを確立。スタッフと経営相談を繰り返し、事業を拡大し、2023年に開業届を申請。地元ミュージシャンの舞台衣装や経営者のパーティ衣装も手掛けています。

CASE_04

学生・若者

マチドリノク

団体の運営、イベントの企画の仕方、マッチングなどを相談

利府町ジュニアリーダーを経験した大学生が中心となり、町を盛り上げる学生団体を結成。交流会でキーパーソンとつながり、「スカイランタンをあげる」イベントを企画・実施。実績が評価され、チャレンジアワード2024で優秀賞を受賞しました。

相談件数

年間約**300**件

起案件数

54件

(法人登記、開業届、屋号での活動)

新たなまちづくり団体

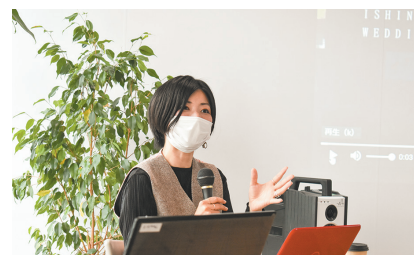
5団体

起業・創業やNPO・市民活動に関する相談を常時行っています。

tsumiki 起業塾

手の届く範囲で確かな意思やこだわりを持って働く
新しい働き方の提案

事業の規模を拡大し成長していく企業がある一方、必要以上に人に頼らず自分の手の届く範囲で仕事を作って働く人たちがいます。tsumikiでは、起業を考えている方、これから何かを始めたい方を対象に、2016年の開館以来「こ・あきない塾」「新生業塾」「こ・あきないの学校」と独自のプログラムで起業塾を開催。小さいながらも強い意志とこだわりを持って働く小商いに注目し、小商いを始めたい方に向けて、自分らしい働き方を考えるきっかけと活動の場を作ってきました。



▲新生業塾 (2021)



▲新生業塾 (2022)



▲新生業塾 (2023)



▲こ・あきないの学校 (2024)

塾受講者の
べ190人

実践者から学ぶ こ・あきない 5か条

- 一、「好き」+「人を魅了する」を要素にすべし
- 一、家族やパートナー、地域の協力を得るべし
- 一、真摯に妥協せず、覚悟を決めて取り組むべし
- 一、人や地域と向き合い丁寧にコミュニケーションをすべし
- 一、小さい規模からスタートし限られた資源を活用すべし

2024年開催「こ・あきないの学校」より

実践



▲「森のこ・あきない市」
2023年、2024年には、tsumikiを飛び出し
宮城県民の森青少年の森で開催しました

こ・あきない市

チャレンジマーケット「こ・あきない市」を
定期的開催

2017年2月から2025年3月までに通算25回開催され、tsumikiが主催する起業塾や委託販売と連動する起業支援事業の一環です。「店舗を持つのはハードルが高い」と感じる方に向けて、気軽にチャレンジできる場を提供したいという想いからスタートしました。出

店者は、自身がつくる雑貨・洋服・食品などのオリジナル商品を販売し、新しい仕事づくりの第一歩を踏み出しています。また、単なる販売の場の提供にとどまらず、出店者がスキルアップできるよう、ノウハウを提供し、学びの場としての役割も果たしてきました。

出店した
小商い事業者
のべ450者



▲出店者は、「こ・あきない市」参加の経験と実績をいかして生業につなげています

町内企業等との連携

町内事業者、小商い実践者、まちづくり人材のマッチングなどを通じて、町内企業からの相談に対応し課題解決へつながる連携イベントを実施してきました。



tsumikiSHOW店街inイオンモール新利府南館
商業施設イオンモール新利府南館と連携し、地域の事業者が集う「SHOW店街」を開催。利府町の仕事や活動を発信し、来場者と直接つながる場を創出しました。



利府町フードドライブ活動
NPO法人ふうどばんく東北AGAIN×イオンモール新利府×tsumikiの連携企画。フードボックスに寄付された食糧をNPOを通じて、支援が必要な施設や困窮世帯へ無償提供する仕組みです。



積水ハウス展示場活用
積水ハウス株式会社仙台支店と連携し、移住希望者や住民が利府町を深く知る機会を創出。展示場を「利(府)活用」し、交流の場としてイベントを実施しました。



りふれ横丁と連携し「こ・あきない市」を開催
株式会社まちづくり利府が運営する「りふれ横丁」と連携し、JR利府駅前のにぎわい創出を目的に「こ・あきない市」を共同開催。横丁内の飲食店も出だし、大盛況でした。

オープンイノベーション 工場見学ツアー

地域経済の活性化に向けて

オープンイノベーションという手法が注目されています。異業種・異分野の技術、アイデア、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで、地域に新たなビジネスモデルが生み出されています。2020年には「オープンファクト

リー五感市」実行委員会の佐々木優弥氏をゲストに迎えセミナーを実施。2021年度からは、利府町しらかし台工場団地を中心に工場見学ツアーを企画し、地域の企業間における新しいビジネスの可能性を探りました。

利府ビジネス チャレンジ アワード

チャレンジと飛躍を応援する

2022年度より、利府町内の個人事業主、企業、プロジェクトチームなどを対象に、地域の特性を活かしたモデルとなる将来性のあるプロジェクトや優れた取り組みを表彰する「利府ビジネスチャレンジアワード」実施しました。



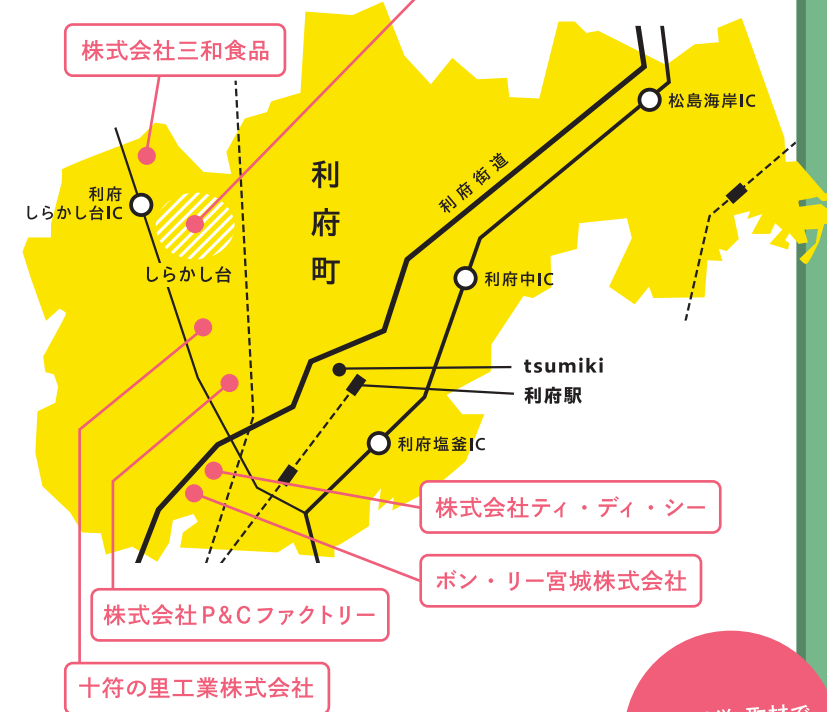
集まれ!
チャレンジャー



2022年度は、応募総数11件。その中から8件が公開審査会にてプレゼンテーションを行い、4組が優秀賞に選ばれました。



しらかし台
株式会社日丸ディスプレイ
株式会社トオハ
株式会社ジー・イー・エス
真栄工芸株式会社
樺産業株式会社
株式会社KALBAS



工場見学、取材で
訪問した企業
11社

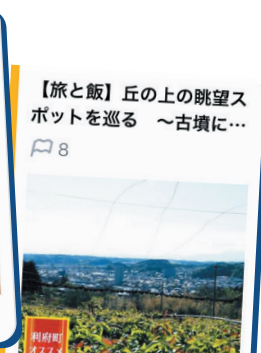
協働

利府町の魅力発信

Rifuのいいとこめっけ!
「まち自慢コンテスト2024」

スマホアプリを使って、利府町のいいところを町内外に発信する「まち自慢コンテスト」を開催。おすすめのお店や名産品、ニッチな場所、ユニークな人など、町民自らが発信者となって、まだ知られていない町の宝物を探し紹介しました。

MEQQE(めっけ)アプリ
(株式会社ジザイめっけと連携)



シティセールス・移住

tsumikiの運営は先進事例として注目され、新聞・雑誌・行政発行の冊子などに多数掲載。TVやラジオなどのメディアにも取り上げられました。また、県内外から40件の視察研修が行われています。tsumikiの取り組みを知ったことをきっかけに利府町への移住を考える方も増えています。



子どもたちが
戻ってきたくるような
「まち」にしたい
須田優佳さん



自然豊かで
魅力あふれる
利府町で暮らし
清水晴佳さん